

浜田市議会議長 原田義則様

議員名 串崎 利行



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成27年5月11日(月)～5月12日(火)

2. 視察先と内容

- ① 安芸高田市 川根振興協議会の取組みについて
「行政に頼らないコミュニティづくり」
講師 辻駒健二会長
- ② 門前湯治村 神楽ドーム視察
(安芸高田市) 説明 山根孝浩安芸高田市政策企画課まちづくり支援係長
- ③ 邑南町 誰もが幸せになれるまち一攻めと守りの定住プロジェクト
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」
講師 石橋良治邑南町長
田村哲邑南町定住促進課課長補佐
口羽正彦商工観光課課長補佐

3. 参加者 原田義則 牛尾博美 西田清久 道下文男 飛野弘二
上野茂 野藤薫 串崎利行 渋谷幹雄

4. 調査経費 12,753 円

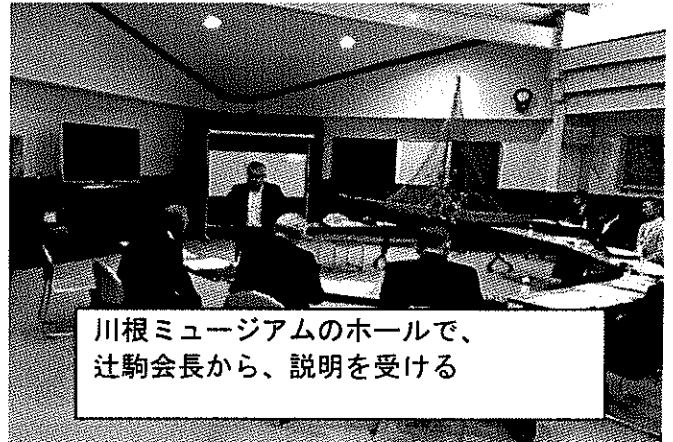
5. 調査研究活動の概要 別紙



安芸高田市

川根振興協議会の取組みについて

- 1972年の江の川の氾濫→自分たちがどう生きるか？
どう変わるか？
- 2198人が500人に→危機感による住民自治意識の芽生え
- 農業が基幹産業—農地を守る
- 道路整備の遅れ→同じように税金を納めているのに、何故自分たちに帰ってこないのか？ ……自分たちが選んだ市長や議員のせい？
- 小学校の統合→学校がなくなると、地域の夢を語れなくなる
- 1982年、「農地を守る会」の立ち上げ→土地改良へ—80haを5年で
 ⇨今から、負担金を出してまで土地に金をかけて何になる
 ⇨わしのところから、先にやってくれ
→補助金の1800万円は個人に配らず、法人の運営資金に—独裁者と言われた
→個人のエゴに任せたら、何にもできない
- 地域のご縁のおかげ
- 親の世話のために、38年前に戻ってきた
- 行政のやれることには、限度がある→行政がやることと、地域がやることの仕分け
- 道路改良—各自が1m50cm提供
- 草刈、道路管理は自分たちがする
- 学校を、4億円かけて改修→「川根ミュージアム」
- 地域住民の声を行政がいかに取り入れるか
→要求から提案のまちづくりへ
- 若者定住の住宅建設へ→23戸建設
- 学校を無くさないという決意が必要
- 支所に権限と予算がないので、
合併したことの難しさがある
- 就労の若者農業者→野菜果物栽培の本には、
草が生えることが書いてない！
- ガソリンスタンドとストアの撤退→一戸千円(260戸)集めて再開
- 各戸毎に、「一日一円募金」実施—給食サービス
→予想以上に資金が集まる
- 「もやい便」—どこからでも片道500円
- 毎朝カーテンを開ける—元気なサイン→地域の人たちが顔を覗かせる
- 香典返し→振興会へ・宴会部長が必要
- 住民自治意識は高齢者の方が高い→みんなでお金を出す



川根ミュージアムのホールで、
辻駒会長から、説明を受ける

所感

浜田市の、特に中山間地と同じで、人口減少に歯止めがかからない、少子高齢化、集落機能の衰退等、課題を抱えている。辻駒会長は、地域の活性化の為には、行政を当てにするのではなく、町づくりは、人づくり、そして自分自身がどう変わるかが大事だと話され、色々な施策を紹介された。浜田市には、辻駒会長の様な、人材の確保が大事だと感じた。

門前湯治村視察(安芸高田市)

- 門前湯治村総事業費40億円
- 神楽ドーム建設費8億円
委託費一年間4000万円
金土日年間150日神楽上演
チケット収入→社中と管理会社とで折半
入場者一日平均500人



テント張りの神楽ドーム
前側畳敷き—2畳の栈敷席に変化
後列椅子席

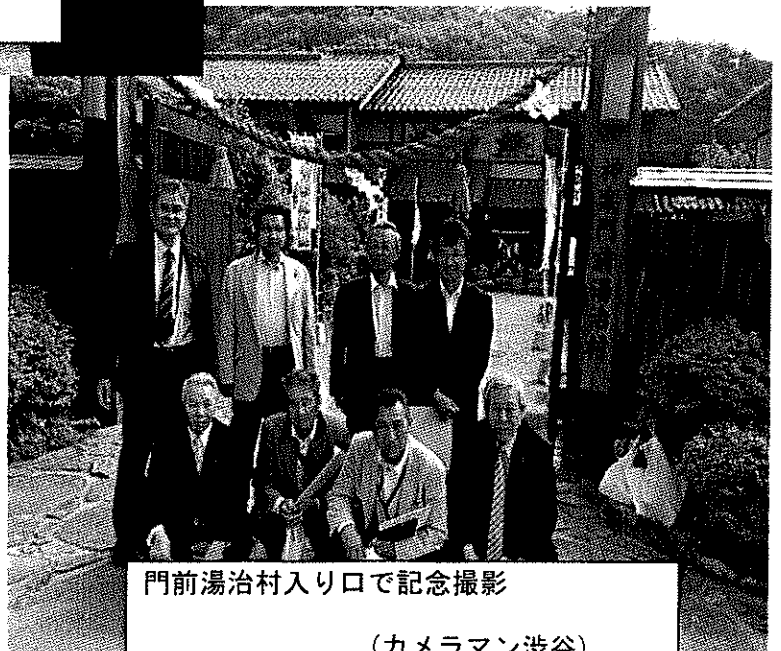


門前湯治村の敷地内で、説明を聞く

所感

湯治場と活用され、昔の風景が好感的であった。温泉施設、また神楽ドームもあり、神楽の好きな方は、最高の湯治場と感じた。

浜田市も、神楽で観光を目指し、温泉施設もある。神楽門前湯治村を、参考にするべきと感じた。



門前湯治村入り口で記念撮影

(カメラマン渋谷)

邑南町

誰もが幸せになれるまち—攻めと守りの定住プロジェクト
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」



- 邑南町の人口—11500人、面積—420平方キロ、世帯数—5000世帯、高齢化率—41.9%、島根県中央部で盆地の多い地形
- 一般会計の予算規模130億円—交付税50%以上、教育費11億円—毎年増やしている
- まちづくりの基本理念→住民が主役—まちづくり基本条例の制定
周辺を大切に—216集落、39自治会、自治会担当職員配置
- 自立を促す→公民館設置・職員3人体制(正規職員1名)—地域に出かけて行く
- 合併後の一体感→ケーブルテレビの活用—加入率96%
- 若手職員による地域のカルテづくり—地域の課題と人口分析
- 出羽地域の取組み→「出羽夢づくりプラン」策定—「日々の生活は足りているが、足りないのは希望」との声を受けて→課題の解決と夢の実現に向けて—「LLC出羽」法人設立
地域通貨と人材バンク(農地保全・除雪作業・空き家対策)
- 町民の生活満足度調査—84%が満足(全国平均64%)子育て支援充実・学校教育充実・高齢者障害者福祉充実・下水道普及率91%・食べ物おいしい85%
- 人口減少の右肩下がりをおやかにする←900自治体2045年には消える
2015年の推計値11,031人⇔現実、11,487人
- 邑南町の人口動態—社会動態H25年+20人、H26年+13人 (浜田マイナス326人)
- 攻めのA級グルメ構想と守りの日本一の子育て村、徹底した移住者ケア
- 町民に誇りを持ってもらうことが大事
- 今いる人も大切に「誰もが主役」・・・日本一の子育て村構想へ
0～18歳人口の増加と定住→H33年の目標1800人(100人増)
邑南町は、過疎債をソフト事業に充当できるように陳情
→特別枠分1億8千2百万円全額消化する必要がある
→過疎ソフトで思い切った戦略を一関係課召集

→保育料の無料化と「日本一の母子保健事業」→中学生までの医療費無料

- 身近で安心な医療体制の構築→公立邑智病院—医師10人体制、24時間緊急受付
産婦人科、小児科機能の充実、専門医の常勤、ドクターヘリ
- 待機児童ゼロ、9ヶ所の保育所は統合しない
→園児4人でも、園長、保育士、調理師の体制維持
- 過疎債を使って、一般財源の支出を振替え
- 日本一子育て村基金→10年後にツケをまわさないために積み立てを行う
- 日本一の子育てむらを目指すにあたり、町民が一丸となって子育てに対する取り組みを進めて
行くことが大事→地域で子育て未来を創る→みんなが笑顔で暮らせるまち
行政無線で赤ちゃんの誕生をみんなに知らせる
- 地域おこし協力隊31人→耕すシェフ、アグリ女子隊、地域クリエイター、アクサホ隊
- 数値目標設置—定住人口200人確保→213人、観光入込客数100万人→92万人、食と
農の5名の起業家→27人に
- 食の学校—調理学校との連携
- 保育料2子目から無料、保育所完全給食、病児保育、延長保育
- 公民館の充実・地域学校・奨学金制度・笑顔キラキラ事業
- 定住支援コーディネーター(職員男女2名)→Uターン者ケア
- 「都市から地方へ」を継続・強化する—農林業の活性化が重要
- A級の町をめざして→新たな就業スタイルの創造
- 今後の課題
町内に食と農を中心とした起業支援センターを設立
民間企業との協働によるさらなる邑南町のブランド力アップ
一流の人材の育成→世のため、人のために役立つ人材の育成
新たな就業スタイルの創造
- 100年先でも持続可能な町へ→理想郷に向けて
- 町全体が一つの家族としてサポート

所感

子育て世代にやさしく住みやすいまちづくりを目指し「日本一の子育て村構想」と、生産者が育てた食材を使って「A級グルメ立町」の2本柱を掲げ、人口の社会増や、出生率の上昇等で、成功され、過疎地域の優良事例として、大変に参考になった。石橋町長の発想が素晴らしく、また、誰もが幸になれる町に向けて、理念を持っておられ、議会、町職員共々、同じ方向性をもち、一枚岩になり、突き進んでおられると、特に感じた。